



# AMUSE



旭川医科大学外科学講座教育支援機構



# AMUSE年報 VOL.9

## CONTENT

AMUSE 理事挨拶	1
2024年度 AMUSE運営体制	9
2024年度 AMUSE活動報告	10
2024年度 メディア掲載情報	14
初期研修医・専攻医紹介	16
第6回 AMUSE学術外科医表彰プログラム	17
外科学講座 合同研究討議会	18
学生と指導医による学会参加について	20
法人会員紹介	22
2024年度 AMUSE 新入会員紹介	24
編集後記	

## AMUSE設立10年目に突入して

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 代表理事  
旭川医科大学 外科学講座 肝胆膵・移植外科学分野 教授



横尾 英樹

昨年、5月の総会にて会員の皆様方からご承認いただき、第3代表理事に就任させていただきました。早いものでもう1年も経つのかと時の流れの早さに驚かされます。初代表理事の古川博之先生、二代目代表理事の東信良先生のご尽力により、AMUSEは旭川医科大学外科学講座に関わる若手外科医の育成・支援を目的とした法人団体として、道北・道東を中心に北海道の外科医不足の解消に貢献してまいりました。そして、AMUSEは2016年に設立されましたので丁度今年10年目に突入することとなりました。その間にAMUSEに新規入会した人数は100人で全国的にみても外科全体の入局者数は増加し一定の役割を果たしてきたものと思います。この責任と使命を引き継ぎ、さらなる発展に努めてまいりたいと思います。

代表理事に就任して思うことは、これまで築き上げてきたものを維持していくだけでは不十分であり、さらに発展させていかなければなりません。AMUSEが協力して取り組んでいる企画としてSurgical Grand Roundsがあげられます。コロナ時代もありしばらく控えてきましたが徐々に再開し2024年度は、計3回が行われました。紙谷先生の心臓大血管外科主催でのタイ交換留学生先のスタッフの先生にもご講演していただき、AMUSEの国際化も進んできたように思います。以下、活動別に今までの成果を具体的に述べたいと思います。

### 【学会活動支援】

学会活動の支援としては、旭川医科大学外科学講座の学生や研修医、専門医の学会参加を助成し、最新の外科医学の知識や技術の習得を促進してきました。また、学会発表や論文執筆の機会を提供し、研

究能力やコミュニケーション能力の向上に努め、優れた成果をあげています。その結果を合同研究討議会&アカデミックアワードで公表、切磋琢磨して成熟してきたように思います。

### 【勧誘活動】

若手医師にどうしたら外科に興味をもってもらえるかという問いに対しては、外科の魅力ややりがいを伝えるために、レジナビ、医局説明会を行って参りましたが、昨年からより多くの情報が得られるように立食形式での開催にしたことで多くの学生や研修医に高評価を得ました。

### 【女性の活躍推進】

残念ながら外科領域においては女性の占める割合は未だに少ないのが現状です。ましてや指導的立場にある女性外科医にいたっては極々少数です。そのような女性外科医の誕生を促進させるとともに、外科医としてのキャリアをサポートしていくことも重要な役割であると考えています。

AMUSEがさらに発展していくためには、より一層、講座間での研修医同士の交流が望まれます。それが達成された時に真の意味での外科大講座制が成立すると言えます。その目的のため私も微力ながら精進して参りたいと思います。

最後に重ねてになりますが、AMUSEは、優れた外科医の育成を目指すことで、北海道の外科医療の質の向上に寄与することを目的としています。今後とも皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 働き方改革と外科診療

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 専務理事  
旭川医科大学 外科学講座 血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野 教授



東 信 良

医師の働き方改革を迎えるにあたって、当院としては、まず、意識改革を促すような説明を繰り返して行ってきたことに加えて、クリニカルパス導入率向上や全科当直廃止を実現し、さらに、WEB予約システム、Robotic Process Automation (RPA)、AIレセプトチェッカー、電子カルテサマリ文書作成支援AI、後払いシステムなどのDXの導入を行ってまいりました。さらに、この春からAI胸部X線画像診断支援システムや医療用文献データベース「今日の臨床サポート」などがスタートする予定となっております。

結果、当院における医師の時間外労働時間が激減しており、院内での時間外労働が年間960時間を超える医師は、R5年度の27人から、令和6年度は2月末分のデータで7名に減少しています。事務方は「時間外勤務時間が激減して、医師の働き方改革は順調に推移しております」と、会議等で報告しています。しかし、私はそれは違うと述べるようにしています。

何が違うか、それは、長時間労働のリストに名を連ねているのが、いつも外科医と新生児科医なのであって、外科医や新生児科に対して有効な働き方改革手段が全く不足していることを示しています。

当たり前と言えば当たり前で、外科医はそもそも外科手術時間を大幅に短縮することは難しい上、緊急手術が多いこと、手術という他科に比べて大きな侵襲をとまなう医療行為を行うので時間外処置を要するような機会も少なくないこと、さらに、ICには多くの時間を割いて説明義務を果たしていることなどが長時間労働を形成しているわけです。

### IC時間を劇的に短くするDX

我々は、まず外来で、治療方針や入院予約のためのICを行い、術前にはまた詳細な手術や麻酔、輸血に関する入念なIC、そして、術直後や退院時にもICを行います。それぞれ20~40minくらいは通常かかっているのではないのでしょうか？その中で、「なんか、いつも同じようなこと話しているよな」と自覚されている方も少なくないのではないかと推察します。そのため、IC内容をあらかじめ録画して、それを見てもらおうということを提案してきまし

たが、あまり実行されていません。さらに、せっかく録画しても、少し修正したい部分が出てきたとなると、最初っから録画し直さなければならないという煩わしさも含んでいます。

そんなことを思い悩んでいた矢先、それとは別件（ロボット手術を血管外科領域に導入する話）で、一緒にシミュレータートレーニングを研究しているイービーエム社の社長に相談していたところ、元厚生労働医系技官で、ロボット手術に造詣の深い外科医である渡邊祐介先生（藤田医科大学先端ロボット・内視鏡手術学講座、北海道大学医療・ヘルスサイエンス開発機構兼任）という方を紹介いただき、昨年の胸部外科学会でその渡邊先生にお会いすることになりました。お会いする前にその先生の講演を聞いておこうと思ってセッションに行ってみたら、渡邊先生の講演内容がAIを用いたIC革命のお話であったのです。世の中、いろいろ繋がるものです。実は彼は、TOPPAN社と組んで、IC自動化アプリを作成していて、とても面白い、エネルギッシュな方でした（心臓外科のU40で若手の手術練習用に一時、金魚すくいのポイが使われていましたが、それを考案したのも彼とのことです）。TOPPAN社は、文章を読む人間の顔の動画と声を録音・録画しておく、AIはその人物がどの単語や音に対してどのような唇の動きや表情をするのかを判断して、新たな別の原稿をつかってそれを読ませるとその人物のアバターがいかにもその人らしくその原稿を読む画像を作成する技術を有しており、その有効利用法を探していたそうです。渡邊先生は、それを知って、その技術を医療界でICに応用できないかと思いついたそうです。

そのアバターを用いた革新的ICを当院にて春から試験運用します。試験導入後は数百万円単位で使用料金が発生しますので、やはり物事にはお金が必要とはなりますが、このアバターIC作戦で残業代が減ることを証明して、何とかこの革新的ICを当院で実装したいと考えております。

### 診療看護師への期待

当院は特定看護師の養成にも尽力しております

が、外科医の働き方改革に直接的に最も威力を発揮するのは、看護部から離れて外科チームの一員として配属される診療看護師だと考えています。

外科医が最も時間をかけているのは、手術そのものに加えて、術後管理の時間です。もし、ICUがclosed ICUとなり、欧米のように外科医は手術だけを行って、術後は集中治療医に完全にお任せできるようになれば、外科医の勤務時間は激減するでしょう。しかし、当院の場合、closed ICUになるまで集中治療医を増やすには最低10年間はかかるということです。そこで期待されるのが診療看護師、いわゆるNPです。NPは大学院NP養成コース（2年間の修士課程）で臨床医学の講義と臨床実習を経て養成され、特定看護業務に加えて、「絶対的医行為以外の医行為」を実施することができる存在です。

2024年の9月に、私は看護部長と人事課長をともだって、NPが活躍する藤田医科大学と秋田大学を見学してまいりました。話聞いていた以上に感動で、衝撃的でした。藤田医科大学は日本におけるNP育成の草分けで、厚労科学研究として米国に視察にいてNP育成を開始したという長い歴史を持っていて、現在総勢38人のNPが一つの独立した部署（病院長直轄NP室）に所属して活動していました。心臓血管外科、整形外科、救急外来、糖尿病内科など多くの診療科、部署に配属されて、医師と一緒にチームで動いているほか、新人NPをベテランNPが指導して屋根瓦式に教育体制をひいており、若手NPが透視室でPICCを挿入するのをベテランNPが手伝うような場面も見学させていただきました。年間1,500件以上のPICC挿入はNPの仕事として確立されていました。

秋田大学は、国公立大学病院で最初にNP育成をはじめたところで、現在9名のNPが在籍しており、こちらでも安藤教授（保健学科）のもと、NPが皆、輝きを放ちつつ仕事をしておりました。心臓血管外科配属の男性NPは、やりがいを熱く語り、当直にもはいつているとのことでした。循環器内科のNPも活躍しており、NPが配属される前まで医師と看護師の関係性が悪かった病棟が、NPが来て雰囲気が一変したとのことでした。NPは医師と看護師の間において、その間をうまく繋いでくれる役割も果たしてくれるそうです。看護師がいちいち医師に聞きにくい個々の患者の治療方針についても、NPは担当医のカンファレンスにも毎日出ているのでそれをよく理解していて、かくかくしかじかこうした理由で今回このような方針になっていることをナースに伝え、そういった方針の場合にはこういった

ものを検査の際にもってゆくと良いなどのアドバイスをしてくれるそうで、病棟看護師からも頼りにされて、すごく良い関係性を築いていました。

両病院ともですが、NPが入った診療科では医師の残業時間が激減し、かつ、その病棟の看護師の残業時間も減少することです。また、外科系の先生からの意見としては、NPが来るまでは、手術中に病棟の患者のことについてしょっちゅう電話がかかってきて、多くの場合には「手術終わるまで待ってもらって」という伝言をしなければならず、病状によっては手術中の医師が手をおろして病棟に行くこともあった。しかし、NPがいると、病棟のことについてはすぐに患者のところに行って、迅速に対応している病院であることが患者の安心につながるし、そのNPが医師を呼ばなければならない状況なのか判断できるので、医師からも頼りにされるとのことでした。

どこかの大学のNPコースを卒業したNPを少人数、当院で採用することでは、本来NPが発揮できる能力や役割が限定されてしまうので、やはり、旭川医科大学が自らNPコースをつくって、大学で屋根瓦式にNPを輩出してゆかなければ機能するNPを育成してゆけないと考え、現在、大学側にNP養成コース設立を検討してもらっています。

NP養成コースが開講された暁には、是非、皆さんに外科系の講義、それから懇切丁寧な臨床実習を御担当いただけますようご依頼させていただきますので、是非、よろしく願いいたします。

#### まとめ

今後の急性期病院の在り方として、外科医がいかに関わりやすいか、それが問われる時代になると確信しています。人口動態や経済状況を含めて変化の時代、先が見えない時代ではありますが、それだけチャレンジできる機会も大きいと考えることもできるのではないかと思います。AMUSEが元気か、AMUSE会員が楽しんでチャレンジしているかどうか、今後の旭川医科大学病院の鍵になることは間違いありません。

多くの大学が病床数を削減しており、御多分に漏れず、我々旭川医科大学も病床数を減らざるを得ない状況です。少ない病床でも、海外では物凄い数の手術件数を普通にやっけてのけているわけで、我々はもっともっと効率よく手術を行うすべを作り出してゆかなければならないと思っています。

是非、AMUSE皆で、そういった病院を目指そうではありませんか！

## 当事者意識をもって手術に臨む

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 専務理事  
旭川医科大学 外科学講座 心臓大血管外科学分野 教授



### 紙谷 寛之

どうしたら手術が「上手く」なれるかというのは、ほぼすべての外科医の共通した悩み、あるいは欲求である。特に、若手外科医にとっては言うまでもなく深刻な問題である。Off JTの重要性を説く先生もいるし、上司の徹底した模倣を勧める先生もいる。また、ハイボリュームセンターでのトレーニングが重要であるとする先生もいるし、海外留学の意義を唱える先生もいる。

私の個人的な見解では、Off JTも大切であるし、上司の模倣は上達の早道であることが多く、また一生いる必要があるかどうかは別としてある一定期間ハイボリュームセンターで勤務する事は重要なことであると考えている。しかし、その様々な努力の根拠として重要なのは、自施設の全ての症例について自分が執刀するつもりで準備をする、すなわち徹底的に考えることではないかと思う。

例えば、冠動脈バイパス術の術前カンファレンスでのプレゼンで、各々の冠動脈の狭窄度のみを機械的に述べ、予定術式はCABGです、標的冠動脈と使用するグラフト材は教授が決定しますという発表を高頻度で経験する。学生が発表するのであればそれでも良いのであるが、初期臨床研修医以上には自分ならOPCAB、on-pump beating CABG、on-pump arrest CABGのいずれを選択し、Targetはどこであり、使用グラフト材はアレとコレ、その理由は何々で、といったところまで考えてほしい。もちろん、これは冠動脈バイパス術のみではなくすべての手術に関して当てはまることである。

術中は窮屈な姿勢となっても術野を見る努力を行ってほしい。例えば、大動脈弁置換術で第二助手は高い足台に乗って体を曲げないと弁切除や糸掛けなどを見ることは出来ず、故になんとなく鋏をもって糸を切る準備をしているとか、あるいは術野から目をそらしてモニター画面に見入る場合がある。しかし、鏡視下手術ならまだしも、直視下手術においてはやはり直接術野を見た方が得られることは多く、それが自分が執刀医になったときに役に立つ。

術中には様々な判断が行われるが、どうしてそのような判断になるのかを考え、わからなければ適宜上司に聞いてほしい。これは術後管理にも当てはまることである。外科は思考の上に成り立つ診療科であることを常に心に留め、自分事として当事者意識をもって取り組んでもらいたいと切に願う。

とはいっても、我々はゆるゆるの医局であり、もちろんそのような努力をしていなくても執刀機会はふんだんに与えられる。しかし、同じ機会でもどれだけ成長できるかは残念ながら個人差があり、それは才能というよりは普段からの準備状況によるものであると思う。また、桜の開花日は気温と日数の積分值で規定されるがごとく、外科医が花開く瞬間のためにはある程度の年月が必要ではあるが、それだけではだめで、普段からどれだけ外科の事を考えているかが大切である。若手外科医の諸君にはせっかく外科医になったのであればぜひ周囲から「上手い」と言われる外科医を目指してもらいたい。

## 混沌とした乳癌薬物療法の中に価値を見出す

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事  
旭川医科大学 教授 (病院)  
旭川医大病院 呼吸器・乳腺外科 科長



北 田 正 博

お疲れ様です。いつもご高配頂きましてありがとうございます。今年の呼吸器、乳腺グループは、3年目(高橋)、4年目(畑中)医師が加わりますが、大学院生は4名となり(安田、氏家、吉野は免疫病理学講座、伊藤は消化器内科講座)、診療スキルは横ばいでしょうか。可能な限り、研究合間の手も借りながら診療していきたいと思えます。加えて、国立がんセンター呼吸器外科レジデントに勤務が決まった中坪にもエールを送りたいと思えます。(帰ってきて後輩に手術を教えてくださいね!)

さて、昨今(特にこの4-5年)がん治療における薬物療法の発達は目覚ましいものがあります。肺癌に劣らず、乳癌に関しても多くの薬剤が研究、開発、発売され、正に混沌としてきました。乳癌は、Biomarker(ホルモン依存性、HER2発現の有無)に基づき治療の基本方針を決定します。しかし、その上で、PD-L1(22C3,SP142)発現例に対する免疫チェックポイント阻害剤、HER2低発現使用可能薬剤、遺伝子パネルより解析する特定遺伝子(PIK3CA,PTEN,AKT1)発現例に対する分子標的治療、CDK4/6阻害剤、また、ADC(抗体薬物複合体)も続々と承認され、更にBRCA1/2変異陽性症例に対する薬剤も入ってきます。各々が第III相臨床試験を経ての発売ですので、特に2nd line以降では、最良の治療法選択がより悩ましい状況になって

おります。乳癌専門の腫瘍内科医もいない施設が大半であり、結果、手術よりもむしろ外来診療が中心になっている不自然感もあります。また、多くの新薬には薬剤性肺障害の副作用、免疫チェックポイント阻害剤には一型糖尿病や副腎機能不全も含めた内分泌機能異常の副作用があり、発症予知できない場合も少なくなく、ストレスのかかる場所でもあります。

しかし、その経験は決して無駄にはなりません。

1. 薬物の機序を知ることで、乳癌に対する造詣が益々深まる、それが、新たな研究テーマを考える素地になる、2. 細かい適応や効果は、論文や薬品紹介のみならず、実際に経験して体得する事も少なくない、3. 薬物療法の中には全国的な治験、臨床研究参加もあり、大学院生の研究費確保に大きく貢献している、4. 手術時間は、意外に癒される時間になる(外来診療で上がった血圧やイライラ感も落ち着く?)、5. 気がつけばもう夕方なので、昼食は食わず、ある意味ダイエットになっている(はず?)などなど…

何はともあれ、現況を最大限享受し、布石をする、若い先生、頑張ってください!

各診療科の皆様、本年も御指導賜りますよう宜しくお願い致します。

## 2024年、令和6年という重かった一年

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事代行  
旭川医大病院 小児外科 科長



宮 城 久 之

2024年、令和6年は小児外科にとって非常に厳しい1年でした。2月29日、自分がくも膜下出血で倒れて2ヵ月の病欠を頂いてしまい、続いてNo.2の石井大介先生が約3ヵ月病欠となり、9月

27日には宮本和俊先生がお亡くなりになりました(一外同門会誌、旭川医大同窓会誌に追悼文を掲載させて頂きました)。ボディープローというよりはクリティカル・ヒットを何発も受け、公私ともに

崩壊寸前でした。東教授、紙谷教授、北田教授のお支えを頂き、さらには横尾教授、長谷川准教授にもご迷惑をおかけしました。AMUSEのすべての皆様が支えでした。

北海道療育園で副園長になられました平澤先生には特に不在の間ずっと助けて頂きました。おかげさまで道北・道東から緊急で搬送されてくる患児の手術は断ること無く安全に遂行できました。

そんな絶望の中、医師5年目の目谷勇貴先生が4月から加わり、8月からは長崎大学から医師17年目の石井生（みのり）先生が加わってくれました。2名とも大変優秀で何も言わずともどんどん動いてくれました。初期研修医1年目で、昨年入局してくれた松本陽先生も一生懸命助けてくれました。6年生では菅野紗希さんが入局してくれました。

絶望の中にも光が見えてきて、自分もいつ居なくなっても大丈夫かなとも思えるようになりました。しかし折角救って頂いた命で、もう少し貢献できることがありそうなので今現在もあちこち動いて未来を切り開こうと試みております。道北・道東の小児

医療のみならず北海道全体、日本全体を支えられるよう精進して参る所存です。



クリスマスに患児の父母にプレゼントを配る  
目谷勇貴先生と石井生先生



学会にて



復活した石井大介先生(左)と宮城(右)

## 消化管外科の近況

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事代行  
旭川医科大学 外科学講座 消化管外科学分野 消化管外科 副科長

長谷川 公 治



消化管外科学分野の長谷川です。今年も消化管外科の近況について簡単に述べてさせていただきます。

まず、2021年3月より病気休職中であつた角泰雄教授ですが、2024年6月20日をもってご退職なさいました。2018年に着任し、3年という短い期

間ではありましたが、消化管外科学分野の初代教授として講座の礎を築いてくださったことにスタッフ一同を代表して感謝申し上げます。

2024年度の消化管外科学分野スタッフは、長谷川のほか、庄中達也先生、谷誓良先生、大原みずほ

先生、武田智宏先生の5名は異動なく、北健吾先生が札幌北榆病院へ異動となり、代わりに大谷将秀先生が遠軽厚生病院から1年ぶりに戻ってきてくれました。若手では、島崎龍太郎先生が札幌厚生病院へ異動となり、勤医協中央病院での初期臨床研修を終えた渡部大成先生（10月からは榎本克朗先生）が着任しました。

上述の異動により、診療科全体としては前年度より1名減となってしまったことに加え、医師の働き方改革が開始されたこともあり、厳しい1年となりました。このような状況に対応して、各科当直を廃止しオンコール体制とし、週末以外の平日も緊急手術当番を設定したこと、さらには若手の先生方の奮闘に加え外科志望の研修医も緊急手術に積極的に参加してくれたことにより、1年間大きなトラブル無く乗り切ることができました。

診療においては、ロボット支援下直腸癌手術が症例を重ね、谷誓良先生がロボット支援手術認定プロクター（直腸）とロボット外科学会専門医（Robo-Doc Pilot 国内B級）を取得し、対象を結腸癌にも拡大しました。また上部消化管領域においても、

食道癌、胃癌に対するロボット支援下手術を開始しました。谷先生が作成したカレンダーアプリにより日程調整をスムーズに行えるようになりましたが、院内の手術支援ロボットはda Vinci Xi一台のみのため大変苦労しています。

学術面においては、医学科5年の北村優貴さんが消化器外科学会総会において優秀演題賞（水上先生指導）、医学科6年の澤田栞緒音さんがHOPES学生セッション最優秀賞（武田先生指導）、武田智宏先生がJDDWにおいて優秀演題賞を受賞した他、庄中達也先生が秋山記念生命科学振興財団より研究助成を獲得する等、着実に成果を積み重ねています。

2024年度も皆様に多大なご助力を頂き無事活動できて参りましたことに、あらためて感謝を申し上げます。今後の講座体制については執筆時点で未定ですが、当面は肝胆膵・移植外科学分野の横尾教授に講座長を代行して頂きながら、角先生が礎を築かれた消化管外科を更に発展すべく皆で力を合わせていきたいと思っております。AMUSEの皆様には2025年度も引き続きより一層のご支援、ご指導を賜れますよう、心よりお願い申し上げます。

## 忙中有閑

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事  
名寄市立総合病院 病院長

## 眞岸 克明



2024年度は、医師の働き方改革の初年度でした。2019年4月から働き方改革関連法案が施行されましたが、医師の働き方改革は2024年まで猶予、準備期間が設けられました。その間、様々な調整が現場では行われましたが、現実の業務へ落とし込めるのか甚だ疑問で、政府も諦めるのかと思いきや、一切の妥協なく施行となりました。勤務日の1/3は労働、2/3は休息と自由な時間、週に2日の休日。これは正しいのでしょうか、一方で医師のなかでも、知識や手技・技術の向上を常に求められる外科医を目指す若者にとっては、本当に良いことなのであるかと思うこともありました。C-2水準という医療機関を限定、本人の発意による計画を立案し…などという高度医療の習得を目指すものの特例水準もありますが、どの程度利用されているのでしょうか？忙しすぎると、特に睡眠時間が短くなると

正しくまともな判断が出来なくなるのは、外科医の誰しも経験があると思います。ですから睡眠負債の解消、これは若者に元気に医師として研鑽を積んでもらうには外せない事だと思います。

忙中閑あり、これは六中観のなかの一節です。ご存じの方も多いと思いますが、これは陽明学者安岡正篤の座右の銘です。ただの閑は退屈でしかなく、ただの忙は心を減ぼす、真の閑は忙中にあり、忙中にあって閑は生きる、なんともしっくりくる一節です。忙しさの中にこそ、心を休める時間が必要で価値あるものだと言うことなのでしょう。ヒトの脳には、デフォルトモードネットワーク、つまりぼーっとしているときに活性化しているネットワーク、領域があり、それは無意識の中でも過去、現在の情報から未来のシミュレートをしているのだそうです。このぼーっとしているときに、過去の情報や体験からク

リエイティブな発想が浮かびやすいと言われてい  
ます。歌詞を知っている音楽を聴いているとき（没頭  
感）、シャワーを浴びているとき、温泉に浸かっ  
ているときなどなど、忙しい中に短い時間ながら休  
みを見つけ、ぼーっとして次の発想へ繋げる。結局働  
かせるのか！と言う声も聞こえてきそうです。そう  
なのです。外科医は常に忙しいのです。

日本心臓血管外科学会雑誌の2025年1月号の巻  
頭言で京都府立医科大学心臓血管外科学講座の小田  
晋一郎主任教授が、ワークライフハーモニーとジョ  
フベズスの言葉を引用されておりました。その中  
で、仕事と生活、人生は対立するものではなく接続

的であり、仕事で得られるプロとしての充実感、達  
成感、それが社会貢献に繋がる好循環、そして再び  
充実感になると説いています。”Die with Zero”な  
かでビル・パーキンス氏は、人生、最後に残るの  
は、自分がたどってきた思い出だと述べておりま  
す。限られた時間の中で幸福を最大化するため  
には、人生の早いうちに良質な経験をすることが大切  
だ、と。それは、仕事を含めた全ての経験であるは  
ずです。仕事で忙しい中に僅かに息をつく時間を見  
つけ、ぼーっとした中でクリエイティブな活動をし  
て豊かな人生に繋げる。忙中有閑、若い皆さんのご  
健闘に期待します。

## 2024年度 AMUSE運営体制 ※2025年1月現在

〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号 旭川医科大学内 共用研究棟2F  
**事務局** TEL 0166-66-2424 mailアドレス asahikawa.amuse1@gmail.com  
 FAX 0166-66-2425 ホームページ <https://www.asahikawa-med.ac.jp/dept/mc/amuse/>

**代表理事** 横尾 英樹  
**専務理事** 東 信良  
**専務理事** 紙谷 寛之  
**理事** 稲葉 聡 (遠軽厚生病院 院長)  
**理事** 新居 利英 (深川市立病院 院長)  
**理事** 北田 正博  
**理事** 眞岸 克明 (名寄市立総合病院 院長)  
**理事代行** 宮城 久之  
**理事代行** 長谷川 公治  
**監事** 後藤 順一 (札幌北楡病院 部長)  
**監事** 石川 成津矢

**上席幹事** 庄中 達也・菊地 信介  
**幹事** 今井 浩二・高橋 裕之・大原 みずほ・栗山 直也・安田 俊輔・潮田 亮平  
**事務局** 滝口 亜矢・小西 真澄・杉本 知恵子

## ●AMUSE法人会員

法人会員施設：37施設 ※入会順掲載

医療法人徳洲会札幌徳洲会病院／天塩町立国民健康保険病院／医療法人仁友会北彩都病院／公益財団法人北海道対がん協会旭川がん検診センター／医療法人社団ふらの西病院／国立病院機構帯広病院／社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院／JA北海道厚生連札幌厚生病院／医療法人健康会くにもと病院／医療法人徳洲会帯広徳洲会病院／医療法人社団慈成会東旭川病院／医療法人社団shindo旭川リハビリテーション病院／JA北海道厚生連旭川厚生病院／上富良野町立病院／医療法人回生会大西病院／医療法人社団桜会小林病院／社会医療法人元生会森山病院／深川市立病院／JA北海道厚生連遠軽厚生病院／医療法人唐沢病院／医療法人中島病院／国立病院機構旭川医療センター／医療法人ひまわり会札幌樽病院／JA北海道厚生連美深厚生病院／社会医療法人製鉄記念室蘭病院／名寄市立総合病院／八雲総合病院／医療法人社団幾晃会木原循環器科内科医院／留萌市立病院／美瑛町立病院／比布町立びっぷクリニック／社会医療法人孝仁会／医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院／医療法人札幌ハートセンター札幌心臓血管クリニック／社会医療法人禎心会札幌禎心会病院／医療法人徳洲会日高德洲会病院／市立旭川病院

賛助会員施設：4施設 ※入会順掲載

公立芽室病院／医療法人社団真佑会旭川消化器肛門クリニック／医療法人社団翔嶺館音更宏明館病院／市立函館病院

合計：41施設

## ●AMUSE個人会員

名誉会員 7名  
 正会員158名 (うち2024年度 新入会員11名)  
 賛助会員 1名

合計：166名

## 2024年度 AMUSE活動報告

### 心臓大血管外科 ウェットラボ

2024年4月17日(水)

会場: 臨床研究棟1階 小講堂

4年生～6年生を対象に開催いたしました。  
外科の手技に触れ、進路決定の一助になりましたら幸いです。



### 心臓外科主催講演会

2024年4月19日(金)

会場: 臨床第三講義室

「ウクライナ医療の現状」  
～心臓外科医の目線から～

Ukrainian College Department of Cardiac Surgery  
Dr. Yevhen Prystaia



### 2024年度 一般社団法人AMUSE 社員総会・大学院 研究討議会・新人歓迎会

2024年5月26日(日)

会場: アートホテル旭川

AMUSE社員総会と併せて開催した「大学院 研究討議会」並びに「新人歓迎会」。新入会員11名を迎え、和やかな雰囲気での歓迎会となりました。

討議会では活発な発表が行われ、質疑応答も飛び交う有意義な討議会となりました。

社員総会では当年度の規程変更修正など今後の活動予定や、前年度の報告を行いました。



### 第38回 Surgical Grand Round 中尾 浩一 先生(済生会熊本病院 院長)

2024年6月6日(木)

会場: 看護学科棟 大講義室

「地域内での病院間連携のあるべき姿を探る」  
～急性期病院が取り組むアライアンス連携～  
をテーマに中尾浩一先生をお迎えし開催しました。  
『医療を通じて地域社会に貢献する』という中尾先生の  
思いを感じることでできる貴重な講演会となりました。



## 肝胆膵・移植／消化管外科 ハンズオンセミナー

2024年6月13日(木)

会場:臨床研究棟1階 小講堂

「腸管吻合」をテーマにハンズオンセミナーを開催しました。おかげさまで大盛況。  
参加いただいた学生さん、研修医の先生、ありがとうございました！



## 2024年度 旭川医科大学 外科学講座 合同医局説明会 + レジナビ(初期臨床研修プログラム施設説明会)

2024年7月4日(木) 会場:アートホテル旭川

39名の学生の方々にご参加いただきました。

初の試みとして、立食形式でお食事を楽しみながらの説明会を開催。

終始和やかな雰囲気の中、学生の皆様と先生方の交流が盛んに行われました。

各関係協力施設の皆様にお越しいただき、丁寧に実習施設内容の説明をしていただきました。

大変有意義な一日となりました。



## 2024年度 ワイワイ附小っ子 キャリアフェス

2024年8月24日(土)

会場:北海道教育大学附属 旭川小学校

昨年度に引き続き、2回目の附属小のイベント参加。  
心臓マッサージや採血などを体験してもらいました。  
腹腔鏡を使用した手技では、鉗子でお菓子をコップの中に入れてもらい、入れられた分だけお菓子をGET!  
みなさん上手にたくさんGETしていました。



## 2024年度 あさひかわキッズタウン

2024年11月23日(土)

会場: 旭川地場産業振興センター



旭川医科大学とAMUSEがタッグを組み「旭川医科大学キッズタウン病院」として医師のお仕事体験を担当しました。小さなドクター達は本物のドクターと一緒に意識がない人の【診察】をして肺に空気を送り、超音波エコーで体内を見て【検査】をし、腹腔鏡やカテーテルを使って【手術】を行い、術創を縫合し【治療】をして命を救いました。「旭川医科大学キッズタウン病院」は体験のキャンセル待ちが出るほど大人気。ほとんどの児童が「楽しかった!」と笑顔で話してくれました。

## 2024年度 第6回合同研究討議会・AMUSE大忘年会

2024年12月21日(土) 会場: アートホテル旭川



合同研究討議会では個々の研究成果を存分に発表していただきました。

質疑応答も多くあり、大変活発な討議会となりました。

大忘年会は140名を超える方々にご参加いただいたうえ、今年は余興も行われ、大変盛大な会となりました。



## 第39回 Surgcal Grand Round

Director Worachet Taecharak

Dr. Nuttapon Arayawudhikul

Dr. Chulephorn Nonthasoot

(Lampang Hospital)

2025年1月15日(水) 会場: 臨床研究棟1階 小講堂

旭川医大と国際交流協定を結んだタイ・ランパーン病院の先生方に「タイの医療」「ランパーン病院の心臓血管外科手術」「タイの医学教育」についてご講演いただきました。

大変貴重なお話を伺うことができ、有意義な講演会となりました。



## 消化器外科 ハンズオンセミナー

2025年2月6日(木) 会場:臨床研究棟1階 小講堂

開催された消化器外科ハンズオンセミナー「消化器外科 基本手技」にはおよそ20名の学生に参加いただきました。



## 外科学講座アドバンス実習説明会

2025年2月12日(水)

会場:臨床研究棟1階 小講堂

年に一度の外科学講座合同の説明会。各診療科から実習内容や科ごとの雰囲気を紹介まで、アドバンスで学ぶべきことの紹介を行いました。



## 第40回 Surgical Grand Round

今村 清隆 先生

(四谷メディカルキューブ)

2025年2月17日(月)

会場:実験実習機器センター3階 カンファレンスルーム



～飛び出せ外科医！問題解決能力で挑む腹壁癒痕ヘルニア治療～  
と題して「腹壁癒痕ヘルニア治療」についてご講演いただきました。たくさんの皆様にご参加をいただき、質疑応答も活発に行われました。



## 外科学講座 4科合同ハンズオンセミナー

2025年3月3日(水)

会場: 講義実習棟2階 第2講義室

生の臓器を使って手技体験が出来るこの機会は貴重で大人気! 血管外科・心臓外科・呼吸器乳腺・小児外科の4科での開催で4つのブースに分かれてそれぞれの体験を、診療科それぞれの先生から直接レクチャーを受けながら外科を体験しました。



## 2024年度 メディア掲載情報

AMUSEは外科医の育成とともに、医療の発展や地域医療への貢献を果たす目的で日々様々な取り組みを行っております。

下記にAMUSEが関わる活動の中から2024年4月1日～2025年2月28日までにメディア等で取り上げられたものを紹介します。

### 新聞・雑誌・Webニュース等

対象期間: 2024年4月1日～2025年2月28日

日付	掲載誌	内容(タイトル等)
2024.4.1	田邊三菱製薬 医療関係者向け情報サイト	「遺伝子治療用製品 コラテジェンについて」 専門医に聞く
2024.4.13	放映【宮城先生】PICU小児集中治療室スペシャル2024	取材協力
2024.4.23	北海道新聞	ウクライナの医師 旭医大で研修
2024.8	道民雑誌 クオリティ 第59巻 第8号	胸部大動脈疾患:症状がない胸部大動脈瘤胸から 背中に激痛の大動脈解離
2024.9.4	メディカルノート	北海道の広域医療でひととき大きな存在感を放つ 旭川医科大学病院
2024.11.29	北海道新聞	市立旭川病院 血管外科新設2ヵ月
2025.1.17	北海道新聞	タイの病院と学生交流
2025.1.30	北海道新聞朝刊新	旭医大で実習中 ワリンソン・タコーンさん
2025.2.22	m3 医療維新	集約化進む心臓血管外科、働き方改革や少子化・ 人口減が後押し

## 初期研修医・専攻医紹介

AMUSE会員における「初期研修医・専攻医」は、道内各所で外科専門医取得を目指し、日々研鑽を積んでいます。

AMUSE会員の皆様や法人会員の各施設様におかれましては、若手外科医の指導からサポートまで、様々な場面でお世話になっております。今後とも引き続き、ご指導、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

※2024年3月末時点

年次	氏名	所属
1年目	神山藤吾	血管外科
	中井智大	血管外科
	日笠瑛二郎	血管外科
	松本陽	小児外科
	佐藤進之介	肝胆膵・移植／消化管外科
	林杏香	
	宮原健人	肝胆膵・移植／消化管外科
2年目	露井出海	血管外科
	淵澤京慶	血管外科
	李廷娥	心臓外科
	井上陽斗	心臓外科
	堀元美里	心臓外科
3年目	橋本侑樹	血管外科
	眞岸孝行	血管外科
	香川倅二	心臓外科
	清水要	心臓外科
	福田はな	心臓外科
	丸岡純	心臓外科
	畑中望美	呼吸器外科
	久万田優佳	小児外科
	榎本克朗	肝胆膵・移植／消化管外科
	渡部大成	肝胆膵・移植／消化管外科
4年目	田丸祐也	血管外科
	宮谷和樹	心臓外科
	元木恵太	小児外科
	高畠宏規	肝胆膵・移植／消化管外科
	牧野開	肝胆膵・移植／消化管外科
5年目	神野浩史	血管外科
	水島大地	血管外科
	横山倫之	血管外科
	白倉健太郎	心臓外科
	望月伸浩	心臓外科
	中坪正樹	呼吸器外科 乳腺外科
	吉野流世	呼吸器外科 乳腺外科
	目谷勇貴	小児外科

## 第6回 AMUSE学術外科医表彰プログラム

2024年度もAMUSE会員は切磋琢磨しながら学術活動を続けています。

今回は潮田亮平先生が高得点を記録し、最優秀賞を獲得しました。敢闘賞は卒後臨床研修中でありながら尽力した功績を称え、李廷娥先生と林杏香先生へ贈られました。

### 第6回 AMUSE学術外科医表彰プログラム 実績一覧

順位	氏名	得点	所属	※2024年9月末時点	大学卒業年
1	潮田 亮平	811	旭川医科大学	心臓外科	2017
2	吉野 流世	746	旭川医科大学	呼吸器・乳腺外科	2020
3	安達 雄輝	529	国立研究開発法人国立がんセンター研究所		2016
4	広藤 愛菜	445	旭川医科大学	心臓外科（アメリカ留学中）	2017
5	國岡 信吾	281	旭川医科大学	心臓外科	2015
6	伊佐 秀貴	238	旭川医科大学	心臓外科（タイ留学中）	2019
7	氏家 菜々美	234	旭川医科大学	呼吸器・乳腺外科	2019
8	成田 昌彦	226	製鉄記念室蘭病院	心臓血管外科	2018
9	水上 奨一朗	181	旭川医科大学	肝胆膵・移植外科	2016
10	大久保 諒	177	旭川医科大学	心臓外科	2017
敢闘賞	李 廷娥	100	札幌東徳洲会病院	卒後臨床研修	2023
敢闘賞	林 杏香	100	旭川赤十字病院	卒後臨床研修	2024

### 受賞あいさつ

### 旭川医科大学 心臓外科 潮田 亮平

このたびは、このような名誉ある賞を賜り、心より御礼申し上げます。紙谷教授をはじめとする諸先輩方の温かいご指導、そしてAMUSE会員の皆様による英文校正費や論文投稿費のご支援のおかげで、このような成果を得られたことに深く感謝いたします。

AMUSEに入会して以来、1位を獲得することを一つの目標としてまいりました。2022年4月から2年間、タイの北部にあるLampang病院に留学し、その間に原著論文5本、症例報告2本を執筆する機会を得ました。また、2024年度にはアメリカで開催された心臓外科分野で最も大きな学会であるSTS (The society of thoracic surgeons) および

AATS (The American association for thoracic surgery) で、それぞれポスターとオーラル発表を行うことができました。これらの経験を通じて、多くのことを学び、さらなる成長を遂げることができたと感じております。

現在は2024年9月より本学大学院に進学し、生体吸収性マグネシウムステントに関する研究に取り組んでおります。2025年度はさらに研究を深化させ、論文執筆に精励していく所存です。そして、引き続き来年度も1位獲得を目指して努力してまいります。

まだまだ未熟者ではございますが、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 旭川医科大学 大学院 研究討議会

●日時:2024年5月26日(日)11:00～ ●会場:アートホテル旭川

2023年度より社員総会後に行われている「旭川医科大学 大学院 研究討議会」。今回は2名の先生に発表していただきました。

### PROGRAM

座長 高橋裕之 先生 (肝胆膵・移植外科)

1. 「NG2陽性周波細胞は迅速な筋核のターンオーバーを介して  
遅筋の恒常性維持に寄与している」

演者 竜川貴光 先生 (血管外科)

2. 「温虚血障害下のブタ肝移植片に対するケルセチンと  
スクロース含有溶液の保存効果」

演者 大谷将秀 先生 (消化管外科)

## 第6回 旭川医科大学 外科学講座 合同研究討議会

●日時:2024年12月21日(土) 15:30～17:00 ●会場:アートホテル旭川

2024年度の開催で第6回を迎えました「旭川医科大学 外科学講座 合同研究討議会」。質疑応答も多く飛び交い、大変有意義な討議会となりました。

### PROGRAM

開 会

1. 開会挨拶  
専務理事 紙谷寛之 教授 (心臓外科)

## 2. 講座研究発表

座長 菊地信介 先生（血管外科）  
庄中達也 先生（消化管外科）

- 鎌田啓輔 先生（血管外科）  
演題名：マウス腹部大動脈瘤モデルにおけるp27（Kip1）遺伝子と動脈瘤発達の関連
- 武田智宏 先生（消化管外科）  
演題名：局所進行直腸癌における遺伝子変異プロファイルと術前治療効果および予後との関連性
- 水上奨一朗 先生（肝胆膵・移植外科）  
演題名：大腸癌肝転移の Histopathological growth pattern の予後的意義と形成メカニズムの解明
- 石井 生 先生（小児外科）  
演題名：固形がんに対する新しいNK細胞療法の開発
- 大久保諒 先生（心臓外科）  
演題名：成熟心筋細胞分裂誘導メカニズムの解明
- 氏家菜々美 先生（呼吸器／乳腺外科）  
演題名：マウス高転移性トリプルネガティブ乳癌に高発現するI型IFN応答分子の解析

## 3. 閉会挨拶

専務理事 東 信良 教授（血管外科）

閉 会

## 学生と指導医による学会参加について

### HOPES 学会発表を終えて

旭川医科大学医学部医学科5年 須田 彩月

2024年度HOPESにて、小児外科分野の希少疾患である気管支原性嚢胞について、発表の機会をいただきました。慣れない英語論文からの情報収集に苦戦したこと、限られた時間の中でどのように伝えるかを試行錯誤したことなど、全てが初めての経験でした。お忙しい中、目谷先生には多くの時間を割いていただき、ご指導いただいたことが今でも鮮明に思い出されます。

今回の学会は、発表者としてだけでなく、聴衆としても多くを学ぶ貴重な機会となりました。日々の業務をこなしながらも、素晴らしい発表をされる先生方の姿に触れ、自らの発表準備に苦心した直後だったからこそ、その質の高さに感銘を受けました。

また、治療方針の決定が困難な疾患において、患者さんにとって最善の選択を考えることの難しさ、患者さんやご家族に寄り添うことの重要性を実感しました。発表を通じて、わずかではありますが自分自身の成長を感じることができました。目谷先生をはじめ、ご指導くださった小児外科の先生方のおかげです。心より感謝申し上げます。

本学会を通じて、医師としての在り方について改めて考える契機となりました。今後も研鑽を積み、先生方の背中を追い続けたいと思います。このような貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。



### HOPES2024学生セッションを振り返って

外科学講座 心臓大血管外科学分野 目谷 勇貴

AMUSE会員の皆様、お世話になっております。

このたび、HOPES2024学生セッションにおいて、医学科5年生の須田彩月さんが「先天性嚢胞性肺疾患」について発表され、見事優秀賞を受賞されました。小児外科分野では3大学で初の快挙となります。

治療方針の難しい症例にも関わらず、文献を徹底的に調査し、疾患理解を深めた上での発表は非常に素晴らしく、質疑応答にも的確に対応されていました。堂々とした姿勢が印象的で、まさに優秀賞にふ

さわしい発表だったと思います。

今回、初めて学生指導を担当させていただきましたが、私自身も改めて疾患について学ぶ貴重な機会となりました。指導を通じて、自分の知識を再確認する良い機会にもなったと感じています。このような経験をさせていただいた皆様、そして須田さんに心より感謝申し上げます。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

## HOPES2024に参加して

旭川医科大学医学部医学科5年 井出裕人

2024年9月14日～9月15日に開催されたHOPES 2024に参加し、学生セッションにて症例発表をさせていただきました。

今回、私が特に力を注いだのは、スライドの視認性の向上と発表の構成、そしてイラストの作成でした。

スライド作成においては、文字の大きさやフォント、配色を工夫し、重要な情報が一目で伝わるように配慮しました。

1枚1枚のスライドについて、何が主張したいことなのかを簡潔に明瞭にするように心がけていました。

また、発表の流れがスムーズになるように、聴衆の理解を促す構成を意識しながらスライドの順番を決定しました。

さらに手術手技や病態を正確に伝えるために、適

切なイラスト、画像を作成し視覚的な理解を助ける工夫を取り入れました。

本番では、会場の方々から多くの質問をいただき、発表内容に関心を持っていただけたことに大きな達成感を覚えました。

学会への参加は初めての経験であり、本番までは不安でしたが、今井先生をはじめ、多くの先生方にご指導いただきながら、一つの症例に真剣に向き合う貴重な機会を得ることができました。

この経験は、私にとってかけがえのないものであり、今まさに病院実習において活かされています。今後の自信にもつながることと思います。

お忙しい中、私にご指導いただきました今井先生をはじめ、そして旭川医科大学消化器外科・肝胆膵移植外科の皆様には、心より感謝申し上げます。

## HOPES2024 学生発表を通じて

肝胆膵・移植外科 今井浩二

井出君の今回の発表は、たくさんの方から支援を受けました。名寄市立病院での実習期間中に消化器内科の田村ゆき穂先生が直接指導してくださったり、以前に当科から学生セッションで発表してくれた、勤医協中央病院初期研修医の森太一先生がzoomで指導してくれたり、それはそれは手厚い指導を受ける事が出来ました。残念ながら最優秀賞を取ることは今年もかないませんでした。今回の発表を通じて、井出君が将来外科を目指したいと言ってくれました。われわれとしてはそれだけで十分過ぎるほどの成果と思っています。



## 法人会員紹介

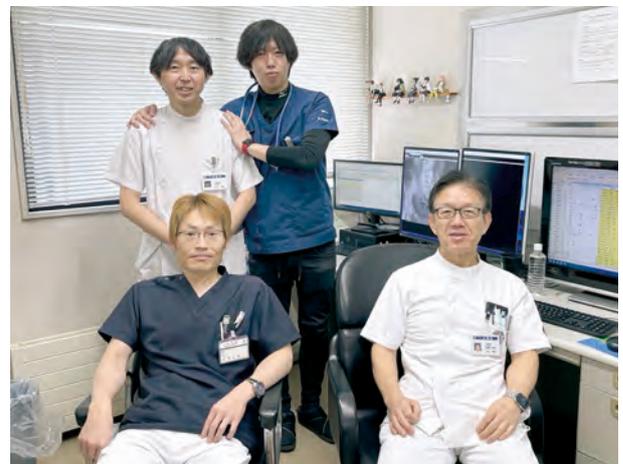
### 医療法人桜会 小林病院

外科部長 山本 康弘

オホーツクブルー、ハッカ、焼肉、そしてカーリングで有名な北見にある小林病院です。小林病院は大正15年に小林九郎先生（千葉大学）が開設した外科病院老舗です。小林九郎先生は僻地医療の向上を目標に馬車に乗り開業の地を探し求め今の場所に辿り着いたようです。2代目の小林達男先生（日本医科大学）は経営の天才とも言える人で各大学の医局、特に旭川医科大学・昭和医科大学と太いパイプを持ち、準総合病院として平成8年には300床まで増床し多くの患者さんの診療を行ってきました。ところが達男先生が病に倒れられ、長男の小林丈泰先生（日本医科大学）が後継者となりました。しかしその後の経営は思わしくなく、あと1年で開業100年を迎えるところでしたが、膨大な借金共々葵会グループに病院を売却し、2024年5月から正式に医療法人桜会小林病院として再スタートしております。葵会グループから職員のテコ入れがあり、労働条件の見直し、電子カルテの導入などを行い、ふたたび300床を達成できるようになりました。しかしオーナーの方針で急性期病床は縮小、透析を中心に慢性期病床にシフトしつつあります。法人化への移行と働き方改革の影響もあり昭和医科大学横浜北部病院消化器センターの常勤医引き上げとなってしまいました。現在は週2から3日の非常勤で消化器科を支えています。

さて外科は今後どうしたものか？北見市は人口約11.7万人、全国で4番目に広い自治体です。この地

方にあり北見赤十字病院とともに当院が地域医療を支えていかななくてはなりません。今年度は86年卒の山本康弘、05年卒の鈴木達也、13年卒の西越崇博、18年卒の井原一樹でやってきましたが、来年度は山本と西越が残留して、新しく21年卒高島宏規君、22年卒渡部大成君の4人チームで頑張っていきます。早く消化器内科の常勤医が見つかり以前のような活気ある外科に戻れることを期待しています。手術は日本内視鏡外科技術認定医の西越を中心に消化器疾患、さらに乳腺疾患なども幅広く扱っています。北見は旭川からは遠いものの、札幌・東京へのアクセスもよく便利で、阿寒・知床の観光、ゴルフ場・スキー場も近く楽しく仕事ができる環境にあります。AMUSEの皆さん、是非一度は当院へお越しください、お待ちしております。



## 法人会員紹介

### 市立函館病院

心臓血管外科 科長 古 屋 敦 宏

以前第一外科同門会誌でも市立函館病院の沿革をご紹介しておりましたが、今回AMUSE会誌への投稿となりますため、今後赴任される先生のためにも、改めてご紹介させていただきたいと思います。

江戸幕府の幕臣で奥詰医師（将軍お抱え医師）であった栗本匏庵（ほうあん）が1858年に箱館にわたり、塩田順庵（同じく奥詰医師）とともに1860年に設立した「箱館医学処」が市立函館病院の前身であり、北海道で初めて設立された病院でした。その後、1868年には高松凌雲が病院長に就任し、幕末の箱館戦争では、敵・味方関係なく負傷者治療に従事したとがあります。栗本匏庵（鋤雲）と高松凌雲は、以前に渋沢栄一を題材にした「晴天を衝け」の大河ドラマの中でも演出されていましたので、まだ覚えている方もおられるのではないかと思います。その後月日は流れ、平成12年にJR五稜郭駅裏に移転し現病院となりました。外観は建物を上から見るとその四隅に病棟を構え、函館市のシンボルとなる歴史的遺構の五稜郭になぞらえると、さしずめ「四稜郭」のような構造となっています。（蛇足ですが、四稜郭と呼ばれる歴史遺構も函館市内に存在します。）

令和6年度の当院の一般病床数は582床で、29診療科目の総勢133名の医師が勤務しています。当院の診療機能の特徴は、渡島・桧山管内で唯一の三次救急指定病院となっており、コロナパンデミックの際にはコロナ重症感染患者を唯一受け入れできる医療機関となっていました。また、月の日にちが3の倍数日に当たる日は、当院の救急当番日となっており、一次から三次までのすべての救急患者が集まって、救急外来はさながら野戦病院の様相となります。当然ながら急性循環器疾患症例も発生し、緊急手術になることも少なくはありません。このような背景により、walk inも含めた年間の救急受け入れ件

数は9000件近くに達し、道内でも有数の救急受け入れ患者数を誇っています。

現在、当科では主任科長の新垣先生（北大出身）と私で共同診療体制を構築し、主に札幌医科大学及び旭川医科大学からの循環器外科研修派遣医を迎え入れて診療しています。当科の一昨年の診療実績ですが、心臓大血管手術症例90例、胸部・腹部ステントグラフト130例、下肢動脈血管内治療200例、下肢バイパス術20例、下肢静脈瘤70例、VAIVTを含むブラッドアクセス170例となっており、心臓大血管から末梢血管までの幅広い領域に対応できる診療体制となっております。

これまで旭川医科大学血管外科より、4年前に私と一緒に赴任した鎌田先生、続いて横山先生が赴任し、両名の先生は当科で数多くの手術診療経験を積み、その後の赴任先で大変活躍されていると聞いております。昨年からは、名寄市立病院院長の眞岸克明先生のご子息の眞岸孝行先生が交代で赴任し、直近では末梢バイパス術をはじめ数多くの診療経験を積み重ねています。

また救急受け入れ患者数の多さから、当院への研修医のマッチング志向は以前から高く、研修医採用担当の先生のご尽力や、観光都市函館への憧れといった動機もあり、道内に加え東北・本州からも多くの研修医を定員割れすることなく迎え入れております。旭川地域からは遠方に位置している病院であり、AMUSE内での研修候補先病院としての認知度はまだまだ低いと思いますが、当院での研修志望動機が合致すれば、旭川医科大学からの研修医の先生や、医学生との早期臨床研修などの受け入れも今後進めていきたいと考えております。その節には、AMUSEの担当役員並びにご所属の先生方皆様のご助力の程、宜しくお願い申し上げます。

## 2024年度 AMUSE 新入会員紹介

AMUSEはこの1年間で下記の13名の新入会員を迎え入れました。みなさんが各所で活躍しています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

氏名	所属科	医師免取得年	氏名	所属科	医師免取得年
眞岸 孝行	血管外科	2022	目谷 勇貴	小児外科	2020
神山 藤吾	血管外科	2024	松本 陽	小児外科	2024
中井 智大	血管外科	2024	榎本 克朗	肝胆膵・移植／消化管外科	2022
日笠 瑛二郎	血管外科	2024	佐藤 進之介	肝胆膵・移植／消化管外科	2024
高橋 昌吾	心臓外科	2016	林 杏香		2024
畑中 望美	呼吸器外科	2022	宮原 健人	肝胆膵・移植／消化管外科	2024
石井 生	小児外科	2008			

### 小児外科 石井 生

石井生（みのり）と申します。2008年北海道大学卒です。卒後は手稲溪仁会病院で6年間外科系研修医としての経験を積ませていただいた後、九州大学大学院で学び、さらに福岡こども病院、福岡大病院、手稲溪仁会病院、北海道こども医療センター（コドモックル）、長崎大学病院で臨床の場を経験させていただきました。非常に多くの方々から学び、支えられてここまで来ることができました。しかし合間合間に脇道に逸れたりしており、同年代と比較するとゆっくりキャリアの人生です。宮城先生にお誘い頂き、2024年8月から現職です。趣味は読書と旅行です。読書は藤沢周平が最も好きですが、ミステリも読みます。今年は呉勝浩「爆弾」がヒットでした。体力と免疫力に難があるため、時々運動するように心がけています。患者様に寄り添い、少しでもお役に立てるよう努力していきたいと考えております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



### 心臓外科 高橋 昌吾

この度、旭川医科大学心臓外科に入局させていただくことになりました、山形大学出身の医師9年目の高橋昌吾と申します。もともと私はネットやSNS、口コミ等で旭川医科大学心臓外科に興味があり旭川医科大学心臓外科を見学させていただきました。そして実際の見学を通して紙谷先生のお人柄や将来海外留学をしたいという私の希望に一番近い道と考え入局させていただきました。旭川医科大学心臓外科およびAMUSEの一員となれたことを大変光栄に思います。旭川医科大学心臓外科には高度な技術と豊富な経験、知識を持つ先生方が数多くいらっしゃり日々大変勉強になっております。先生方のご指導を仰ぎながら、皆様のお力になれるよう努力してまいります。

旭川医科大学心臓外科およびAMUSEの一員として、地域医療に貢献できるよう、これからも精一杯努力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



## 小児外科 目谷 勇貴

初めまして。AMUSEに入会させていただきました。旭川医科大学卒業後5年目の目谷勇貴（めやゆうき）と申します。今年度から小児外科へ入局させていただきました。

私は函館市生まれで、函館ラ・サール高校を卒業後、旭川へやって参りました。部活は小学校から大学までバレーボールを続けていました。研修医期間終了後は、父が眼科を開業している影響もあり、眼科医として2年間勤務しておりました。しかし、学生時代から子供と関わる事ができる科に進みたいという思い、外科医の手術をしている姿のかっこよさに憧れていた気持ちは変わることなく、自分の思いに素直になろうと決意し、小児外科へ転科させていただきました。

今年度から外科研修が開始となり、各科をローテーションさせていただく中で、未熟な私に対し、先生方が温かく丁寧にご指導くださったことに心から感謝しております。誠にありがとうございます。

外科医としての研鑽を深めるため、より一層精進してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



## 血管外科 眞岸 孝行

卒業3年目の眞岸孝行と申します。私は研修医2年目の2023年12月に血管外科の入局させていただきました。2024年9月までは旭川医科大学病院で勤務しており、10月からは市立函館病院で勤務しております。最近では忙しくもカテーテルや手術を執刀させて頂ける機会も多く頂いております。また学術



活動に関しても上級医の先生方にたくさんのご指導いただきながら日々取り組んでおり、非常に充実した日々を送っております。

まだまだ未熟者ではございますが、将来は地域を支えることのできる外科医になっていけるよう日々研鑽を積んでまいります。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## 呼吸器外科 畑中 望美

旭川医科大学44期卒、卒業3年目の畑中望美と申します。初期研修を市立札幌病院で行い、3年目も同院にて呼吸器外科を専攻させていただいております。出身地は札幌で、札幌南高校を卒業した後、旭川にやって参りました。部活動はソフトテニス部に所属し部活を中心とした生活をおくっておりましたが、後半はコロナ禍の影響もありなかなか病院研修を行うことができなかつたため志望科が定まっておらず、手を動かす科がいいなという漠然なイメージで初期研修を始めました。外科系ローテーション中に先生方に手厚くご指導いただき、手術の面白さと患者さんが笑顔で退院される様子に惹かれ外科を考え始めました。しかしながら体力的な不安などもあり進路選択に悩んでいたのですが、呼吸器乳腺外科の先生方にご相談する機会をいただき前向きな選択をすることができました。

現在市立札幌病院にて研修しており、来年度より旭川医科大学呼吸器乳腺外科にて研修させていただく予定です。

外科医として成長できるよう、日々精進してまいります。至らぬ点多々あるかとは存じますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



## 肝胆膵・移植／消化管外科 榎本 克朗

皆様、初めまして。

旭川医科大学44期卒業の榎本と申します。北海道各地を転々とする生活の後に中学で寮生活を送っ

て旭川に参りました。旭川に住み続けて今年で10年目になりますが未だ寒がりで、冬場に一度は派手に転び道行く小学生に笑われています。

大学生活は情報工学に打ち込み、ゲノム解析など分野に漠然とした憧れを抱いておりました。当時得た知見は今でもAI関連の研究や腫瘍学の理解、医局テレビの修理などに活用しております。しかし、旭川医科大学で研修を行う中で自分の医師像が見つけられず志望先を迷走しましたが、幅広い臓器に対応しながら、自分の手で治療が進められる消化器外科に魅力を感じ門戸を叩かせていただきました。

写真は国立科学博物館の国内初の電子計算機の部品の前での一枚です。未熟者ではございますが、何卒よろしく願い申し上げます。



## 血管外科 中井 智大

はじめまして。旭川医科大学第46期卒の中井智大（なかいちひろ）と申します。出身は高知県で、大学から旭川にやって参りました。歴代最高気温41℃の高知県から、歴代最低気温-41℃の旭川へと驚きの大学生活でした。私は、5年生の臨床実習で血管外科をローテートさせていただき、その魅力に魅了され、卒業前の6年生の3月に血管外科に入局させていただきました。医学部に入る前は、まさか自分が医師に、まさか自分が外科医に、と思っていたので、このような素晴らしい御縁に感謝しております。

現在は札幌厚生病院で初期研修医1年目としてお世話になっております。あれもできなかった、これもできなかったと日々反省の毎日ですが、少しでも将来先生方のお役に立てるよう日々精進していきたいと考えております。若輩者ではございますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



## 血管外科 神山 藤吾

旭川医科大学研修医1年目の神山藤吾と申します。私は大学6年の秋に血管外科に入局させていただきました。出身は苫小牧で、立命館慶祥高校を卒業し旭川医科大学に入学いたしました。大学では中学から続けてたラグビーで精神と肉体を研鑽してまいりました。現在は研修医として日々挑戦し学習させて頂く毎日を送っております。入学当初から外科医になりたいという目標はありました。しかし、学生時代に研究室配属や学生時実習で血管外科を体験させていただき、「細かい手術やカテーテル、ダイナミックな手術である開腹置換など幅の広い手技を習得したい」という明確な目標に変化し血管外科を志すことにいたしました。まだまだ若輩者であり、多くの先生にご迷惑をおかけするかとはい思いますが、沢山学習し少しでも早く一外科医として活躍できるよう努力していく所存です。これからも何卒よろしく願い申し上げます。



## 血管外科 日笠 瑛二郎

製鉄記念室蘭病院研修医1年目の日笠瑛二郎と申します。

出身は大阪で大学から北海道にきております。室蘭の心臓血管外科、大学の血管外科での実習で先生方に大変お世話になり先生方のような外科医に憧れてAMUSEに入会させていただきました。大学時代は競技スキー部でアルペンスキーをしておりました。学生時代はスキーしかしておらず、なんども留年の危機にあいながらなんとか卒業しましたが研修医になったいまは学生時代の不勉強だった自分を悔いるばかりです。現在は様々な診療科にて日々勉強させていただき、先生方のご指導のおかげで少しずつ成長を実感しております。ありがたいことに初め

での学会発表もさせていただき学術活動におきましても一歩進むことができました。日々自分の不甲斐なさに落胆することも多々ありますができることを少しずつ増やしていき、自分の理想とする外科医に近づけるように日々精進してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



## 小児外科 松本 陽

初期研修医1年目の松本陽と申します。

大学6年生の時に小児外科への入局を決め、この一年間で学会での発表や論文の作成など多くのことを経験させていただきました。

AO入試で入学したため外の病院で初期研修を行いたいと思ったことも入局を早期に決めた理由の一つにありました。マッチングで第一志望の病院に受からず、それならば旭川医大で研修を行い小児外科の先生方に可愛がっていただこうと考えていましたが、この1年間で3つの学会での発表と1つの症例報告を書かせていただくなど、想像以上に多くのことを経験させていただきました。引っ込み思案な自分の性格もあり、なかなか思うよういかないことも多々ありますが、先生方のご期待に応えられるよう日々努力していきたいと思いますので、これからはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



## 肝胆膵・移植／消化管外科 佐藤 進之介

旭川医科大学第二外科所属の初期研修医1年目佐藤進之介です。2024年の4月から札幌東徳洲会病院で研修しております。当時流行っていたドラマや漫画の影響で高校2年生頃から医師を目指し始め、外科医になりたいと漠然と思っておりましたが、入学後の実習で手術見学をした際に外科への憧れはますます高まり、今後の長い医者人生を外科医として過ごすことを5年生時に決め、入局しました。

現在の初期研修ではこの1年間で多くの救急外来業務に携わることができ、身体的にも精神的にも成長を実感しております。外科ローテもしましたが、commonな症例や緊急手術、病棟管理、解剖等さまざまなことを学ぶことができました。来年度も一つでも多くのことを学び、3年目から外科医として旭川医大に貢献できるよう日々邁進しておりますため、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願ひ申し上げます。

(留学した時の指導医の先生方と同期です。)



## 林 杏香

2024年に旭川医科大学を卒業し(46期生)、現在旭川市内の旭川赤十字病院で初期研修をしております林杏香と申します。簡素ではございますが、この場をお借りして自己紹介させていただきます。



出身は北海道札幌市で、2018年に旭川医科大学に入学致しました。入学前より外科への興味がありましたが、臨床実習で先生方の手術などを拝見し、外科に進むことを決意いたしました。

現在初期臨床研修をさせていただいております

が、救急当直などを含め、充実した研修生活の中で、当たり前にはできなければならないことができない自身の未熟さに焦りも感じております。初期臨床研修の残された時間で少しでも力をつけ、患者様のお力になれる外科医を目指してまいります。今後とも精進して参りますので、何卒宜しくお願いいたします。

### 肝胆膵・移植／消化管外科 **宮原 健人**

札幌厚生病院研修医1年目の宮原健人と申します。生まれは釧路で、その後帯広、札幌と道内を転々としておりました。高校は札幌開成中等教育学校を卒業しました。小学生の頃からずっとサッカーを続けており、今でも時々球蹴りをしています。

私は、大学5年生の時にご縁がありHOPESで消化器外科症例を発表させて頂きました。その発表を通じ能動的にリサーチしていく中で、消化器外科領域に興味を持つようになりました。横尾教授をはじめ、教室の多くの先生方に熱心な勧誘をして頂き、私自身もその一員となり少しでも力になりたいという思いが強くなりました。

初期研修2年間で医師としての基盤を作れるよう、多くのことを吸収し、自分の理想像に少しでも近づけるように日々励んでいく所存でございます。至らぬ点は多々あると思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



## 編集後記

本号も、AMUSE年報をお読みいただきありがとうございます。

年報作成に当たりましては、毎年のことながら短い期限の中で、ご多忙な各先生方へご寄稿依頼をしてしまいまして、常々申し訳なく思っております。その中でも、先生方には寄稿執筆を御快諾頂きまして感謝しかありません。素晴らしい寄稿の数々ですので、ぜひ楽しんでご覧ください。

また、本号では例年通りAMUSE新規入会の先生方の自己紹介も掲載しております。毎年血管外科・心臓外科の入局者の多さには感服するばかりですが、消化器外科も今年は4名の新入会員を年報でご紹介できました！AMUSEにとって大事な若者達の自己紹介から、その存在を少しでも身近に感じて頂けたならば幸いです。

早いものでもう5月です。昨年末は数年ぶりにAMUSE忘年会が対面で開催され、なつかしさとともに、皆で集まり語り合うことの楽しさを再確認できました。コロナは今後も完全消滅することはありませんが、節度を保ちながら、今年度もAMUSEの各種行事を皆で学生さん達とともに楽しみ、多くの若者が外科の門を叩いてくれる契機になってくれることを期待しています。

本号発刊に際し、AMUSE理事・幹事の皆様をはじめ、各講座の先生方・秘書の皆様、AMUSE事務局の皆様にも多大なご協力を頂きました。

無事に年報を発刊することができたことに対する皆様への感謝と、今年1年の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げ、編集後記とさせていただきます。

(文責：高橋裕之)

## AMUSE年報 vol.9

発行

2025年5月1日

編集

一般社団法人 AMUSE

(旭川医科大学外科学講座教育支援機構)

印刷

植平印刷株式会社